明治天皇御集研究

三井甲之著

昭和三年五月二十日　初版印刷
昭和三年五月二十五日　初版發行
昭和十七年六月十日　七版印刷
昭和十七年六月十五日　七版發行（五、〇〇〇）

認承協文
出
ア 80350

東京堂出版所

明治天皇御集研究

（檢）定價金貳圓八拾錢

著者　三井甲之
東京市神田區神保町一丁目一七番地
株式會社東京堂代表者

發行者　大野孫平
東京市牛込區改代町二四番地

印刷者　田中末吉

東京市神田區神保町一丁目一七番地

發行所　株式會社　東京堂
電話神田(26)八八五―八八八番
振替東京二七〇番

文協會員番號一二〇五〇七番

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社

仲村製本

刷印社想理

はしがき

今こゝに『研究』といふは『明治天皇御集』を國民宗教經典として拜誦しまつるとゝもに、かしこかれども御集を學術的研究對象に選擇しまつることによつて、著者の志す文獻文化史的研究を實現せむとするのである。

この文獻文化史的研究方法は、その本來の性質よりして、著者の短歌長詩を中心とする藝術的表現及び他の文獻文化史的研究によつて補足せらるべきものである。

『明治天皇御集』の大御歌はすべて　明治天皇の　天皇としての人生觀を表現せさせ給うたものである。著者がいまこゝに、大御歌について解釋し批判しまつるところのものは、たゞ大御歌によつて著者のこゝろによびめさめしめられたと

ころのものを、著者のまづしく足らはぬ知識と體驗とに基く能力のかぎりに於いて、つゝしみて述べあらはしたものである。

精神科學的研究は研究者の知識よりもその體驗に依據するところ多く、その知識的分析の作業も研究者の體驗に基くものなるが故に、おのづから知識的研究に躊躇せずして、圓融無礙の、常倫を超出したる活動を示すべきであつて、こゝに概念的認識の知的作業が藝術的創作に接觸しようとして、それと同時に研究者の體驗を暗示しようとするのである。故にその研究は宗教的儀禮の嚴肅と熱情とをもつて從事せらるべきである。人生研究は發心求道の活動となつて、自然科學的研究者の人生に對する態度とは異つたところの態度を要求するのである。（大正十四年）

○

おふけなくもいま『明治天皇御集』を研究しそを發表せむとするのである。われは大御歌を拜誦しまつりてわづかに安心を得しめられつゝはかなく生くる民、大御歌を拜誦しまつることによりて生くる勇氣を得しめられつゝある民、これ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

まことに『神のまもり』と現しく思ひつゝある民である。しかして民のつとめを盡さむがために身のほどをもかへりみずこゝに『明治天皇御集研究』を出版せむとするのである。

されば大御歌はかくのみこそ謹解しまつるべけれといひ、研究法はこれにこそ限れといふのではない。しかしながら誤れる研究法と解釋とについてはこれに批判を加ふることを怠らざらむとするのであつて、こゝに『研究』の意義があると信ずるのである。

また此の研究は完成せらるゝことなき連續事業であり、研究者のはかなき生活と祖國無窮の生命との交通によつて、同信の友らの、また一般の人々の矯正補足分析綜合のもとに、永久に生成すべきものであつて、日本國民に與へられたる神聖なる義務の對象である。

この如き學術的態度はあらゆる人間の罪惡行爲を悲み嘆きつゝ『神のまもり』をいのる求哀懺悔捨身求道の至誠心によつて支持せらるゝのである。

こひねがはくは、ちはやぶる神の御稜威を『ことのはのみち』によりて現しく

しめさせ給ふ『しきしまのみち』の經典『明治天皇御集』を拜誦しまつることによりて、ちはやぶる神の心をうつせみの人の心につながらしめられむことを、うらなげきこひのみまつるのである。（昭和二年）

○

『明治天皇御集研究』はその一部分を大正十四年二月より雜誌『日本及日本人』に連載したのであるが、今回その大部分を整理補足してこゝに一卷にまとめたのである。故に本書は嚴密の意味に於いていへば『明治天皇御集研究』の『一部』である。しかしながら著者が明治大正昭和三代の大御代につかへまつりつゝ全心身の力をあつめたる研究は本書に結實したものであることを告白せむとするのである。

本書は專門學術界の特殊知識的要求にのみ應ぜむとするものではなく、すべての職業とあらゆる境遇との人々、ことに心身勤勞生活者と不安苦惱生活者とに對して、明治天皇の大御心をあふぎいたゞきまつるべき機緣をつくらむとこひねがふのである。またこれが精神・文化・社會・歷史科學の正しき研究方法及び任務で

あると信じて學界の批判を求めむとするのである。

著者は學者・學生・教育家・軍人・實務勤勞者また教化修養・理財政治的公共團體に本書を提供せむとするものである。また新時代の女性ことに家庭の主婦が『坤德對照』に女性道德の手本をあふぎまつり、社會理想の問題を解決せむとする純情の青年學生がマルクス主義の個我功利道德と『しきしまのみち』の『やまとだましひ』とを正確の心理學的見地と藝術的體驗とより對比して、知識より批判へ、批判より實行へと、こゝに心絃共鳴の世界を見出すことの如き、これ著者の限りなき期待の一例をしめすものである。

○

序論としての宣言、研究方法論及び三百九十三項の索引的撮要目次は本論と密着關聯して相互補足するものであるからして、それら各部分の合成によつて始めて本書が一つの『明治天皇御集研究』となるもので、索引的撮要目次も本書の成立と分離すべからざる主要部分であることを特に附言したいのである。引用しまつりたる御製の下の數字は御製の年代を示すものである。（昭和三年）

序論

祖國禮拜國民宗教經典明治天皇御集拜誦宣言

明治天皇神あがりましましゝ時、われら驚き目さめしめられ、われら國民のつとめいよいよ重しと氣づかしめられたのである。大正三年世界大戰はじまり、同じき年の對獨宣戰は戰爭開展に於ける世界勢力關係を支配する重要條件を決定し、大正八年ヴエルサイユ平和條約成りて、技術武器中心の戰爭は思想言論中心の戰爭によつて延長補足せられ、大正十年　皇太子殿下攝政に任ぜられさせ給ひ、同じき年ワシントン會議開かれ、國際思想戰はその終結に導かれ、諸國の主權に關係する重大の軍備制限條約成り、大正十二年九月一日東京を中心として、大震災につぐに大火災をもつてして、その破壞の威力世界を驚かし、その慘狀世界大戰々場のそれに比較せられ、こゝに破滅沒落より創造革新への復興原理を求め、國民思想の趨向を反省せしめられしが、か

しこくも同じき年十一月十日國民精神振作の詔書をくださせ給うたのである。

われら明治の御代にはぐゝまれ大正の御代に國民の責務を分擔するもの、如何なる精神原理及び思想信仰によつて各個人及び全國民生活をみちびくべきか。われらは信ず、われらはわれらの祖國日本を禮拜すべしと。われらは信ず、祖國日本の精神はかしこくも、　明治天皇の大御心にすべをさめしめられたりと。われらは信ず、　明治天皇の大御心は『明治天皇御集』に表現せさせられたりと。かしこくもわれら日本國民は『明治天皇御集』を拜誦しつゝ、　明治天皇の大御言をさながらにいたゞきまつるのである。

申すもかしこかれども、　明治天皇はたふとき大御身にましまして、祖國日本のために大御身をさゝげつくさせ給ひて神あがりましましたのである。また祖國日本のためにその身をさゝげたりしものゝま心はみな、　明治天皇の大御心にすべをさめしめられたのである。われらは『明治天皇御集』を拜誦しつゝかくのごとしとしぬびまつるのである。

明治天皇神あがりましましてよりこのかた、國家制度社會組織の重要なる地位をしめし人々の公共生活に對する道德、歷史傳統に對する宗教、科學研究を指導する哲學、實人生を表現する藝術は、悲むべし、そのいちじるしきものゝ多くは、祖國日本のためにその身をさゝげたりし人々をしぬぶことをわすれ、またそをすべをさめさせ給ひし、明治天皇の大御心をしぬびまつるべきことをわすれ、おごりたかぶりさまよひたりしあとのみであつた。國民生活の表面に浮きあがりはびこりたりしものは、われらの分析の對象であつて歸依の對象ではなかつたのである。このごとき世のさまにいきどほろしき心をいだきてひそみもだえつゝありし人々は、もろともにいま立ちいづべき時である。

われらは祖國日本を禮拜し『明治天皇御集』を拜誦しまつりてすゝまむとするのである。唯一生命のゆくべき一すぢのみちをゆき、全國民にとつて同じき祖國日本をまもりて進まむとするのである。世界のいたりとゞまるところにはたらかむとするわれらはらからの生命の血脈祖國日本を、われらはともにまもりて進まむとするのである。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

われらの個體生活は全體綜合生活の分析により生れたるものにして、孤立して完成せられたる個體生活はあることなく、まことにあるものは斷ちがたく分ちがたき團體綜合生活である。しかしながら分つべき世界もなく、限るべき時代もなくはてなく流轉する全宇宙は『自然』であつて『人生』ではない。全體を區分し、區分を全體につながらしめ、分析と綜合とによつて主客をわかち過現未をかぎるとき、こゝに生死意欲の人間生活が無心放在の自然現象より開展するのである。これまことに人間精神開展の法則にして、個人生死國家興亡は人類生活の運命である。

この法則は事實に開展して、こゝに一定の傳統により、一定の土地に、一定の國語をはなしつゝ、一定の民族團體をかたちづくり、自足自立の統一的趨向を有する人間生活理想ヒユマニテイに向つて進むところの國家生活の諸形態が派生せしめらるゝのである。かくのごとくにしてこゝに自然現象と人間文化とを分つ基準、一切の人生價値批判の基準、全體綜合生活の現實的區分限界が生成しつゝあるのである。――われらにとつてはその限界はこれをいづくに求むべきか、そは家族、地方團體、また同信

團體にあらず、しかしながら宇宙、世界人類、國際團體また東亜たるべくもあらず、まことにそはたゞ『日本』である。

世界文化史上のまた世界現勢に於ける日本は日本民族團體であり、東洋文明の傳統及び理想の現實的把持者としての自立國家であり、また對照補足せらるべき東西洋文明の集中地點である。われらの祖國日本は、その分派としてのアメリカをふくむヨウロッパ文化單位と對立するところの、アジア文化の現實的總攝把持者としての自立國家である。祖國日本はすでに確立せられたる世界文化單位であり、全ヨウロッパ統一の過程にある諸國家とは異りたる開展階次にあるものであつて、普遍的概念としての國家ではなく、まことにはたゞ『日本』とのみよぶべきである。故にわれら日本國民にとつては『日本』は『世界』であり『人生』である。『日本』はわれらの內心にいくるところの『宇宙』であり『永久生命』であり『信順意志』である。そは祖國日本を防護せむとする實行意志であり、『日本はほろびず』と信ずる一向專念の信仰である。

自給自足のための民族團體の力學的統一と自立自主防護のための軍備とはヒユマニ

テイの要求であり、排外侵略の隨意選擇行爲ではない。自立自主の强國數の減少は、交通を條件とする文化開展の、またヒユマニテイへの開展の不可抗的法則である。東洋文明の現實的威力としての相續開展は朝鮮臺灣をふくむ日本及びアジア大陸の交通連絡補足協同を要求する。東洋文明の現實的威力としての開展は世界人類文明にとつての絕對的必要である。それ故に東洋に於ける日本がその自立を防護することは世界人類文明のために負ふべき最小限度の責務であり、人間生活開展の法則に隨順することであり、またそれ故にそれは世界各民族各國家によつてその正しき理由を承認せらるべきである。人類文明は交通によつて開展し、交通は對照的要素の强化補足によりて新生命を創造するのである。世界各民族各國家はその國民經濟生活に於いて密邇の關聯を有するのみではなく、その經濟生活を攝取統一するところの全國民精神生活に於いても密邇の關聯を有するのである。東西洋文明の連帶關係を確認すべきことをわれらがこゝに世界各國民に向つて要求せむとするのはこの故である。

きけ、長き間の日本の同盟國たりしところの、またつねに東西に呼應すべき西方島

國民の『ブリトンは決して、決して、決して奴隷とはならじ』とうたひつゝ、見よ、世界の海波を世界交通路を支配せむとしつゝあるを。また見よ、その分派アメリカはアメリカ主義によつてその移民を選擇同化しつゝその國民的統一を完成してその母國に雁行せむとしつゝあるを。われらは東方の海上に、民族の鄕土アジア大陸をのぞみつゝ、朝日をしめす國旗のもとに、祖國日本の自立のために、『かたしとて思ひたゆまず』生死興亡の無常變易原理のさらにそこに溯源すべきところの『日本はほろびず』とふ不可思議の信を實現せむとするのである。

事實として、國家の自由獨立自治主權の失はれむとしつゝある今のドイツの慘狀をみつめよ。國民文化の中堅としての中流階級とゝもに、國民敎化諸機關の衰頽沒落しつゝある永續悲劇のいたましさをかゞみとせよ。社會主義理論に於ける國家概念と史的事實としての國家との混同より起りし誤謬論理の人生實驗として、此の世ながらの地獄の責苦になやむところのドイツ國民生活のいたましさをかゞみとせよ。

ロシヤ最近の革命は地上天國の現出にはあらずして、單に共產主義者政權獲得の政

變であつた。彼等の政權獲得思想宣傳戰の武器は、マルクスの窮極豫定の歴史哲學と概念構圖の辨證法とであつて、生命の不可思議創造と文化の不斷開展とは黨派支配の權略によつて阻礙せられたのである。しかしながらかれらは今人間心理の不可抗的法則と國民生活事實の制約とのもとにその共產主義理論を矯正し、またインタアナショナル世界革命の名義によつて宣傳せられたる統一意志と支配計畫とに軍備的形式と戰略的組織とをあたへてその國民生活速度をはやめむとし、ドイツに於いても一九一八年の革命は、たゞ無確信の政黨首領跋扈のメロドラマなりしことを反省し、まことの民衆本能革命は一九一四年の開戰とゝもに、國民總動員として適法にまた軍事的形式に於いて行はれたりしことをさとり、フランスに於いてもまたイタリアに於いても理智主義より生れたる國家敵視の社會主義理論はすでにその人生試驗を終りて事實感覺と國家思想とは傳統精神によつて統一せられ、いま全世界はまことの宗教的禮拜の對象を人生そのものに見いだし救濟者を外に求めずして、解脫を內心に求め、人生の理想を同胞の內的平等感に求めむとしつゝあるのである。

しかるに最近の日本に於いて國家生活の事實と意義とを知らず、國家威嚴の保持と祖國防護の用意とをわすれることを誇りとして、大學と新聞雜誌とに巢くへるすべての僞新思想僞進步思想の宣傳者は、かれら自身、自立國民生活の廣大恩德をかうぶりつゝ、そは實に祖國日本自立のためにその身をさゝげたりし同胞の靈の威力の冥加によるものなることをわすれ思想上の後進國ドイツ、ロシヤの舊式哲學をまなばむとするところの忘恩の、またそれ故に無自覺のともがらである。かれらは個體概念にとらはれて國家生活の事實を知らず、平和概念にとらはれて祖國防護の用意を思はず。さらに理論と概念とを眩惑武器とする外國の宣傳に內應して國民精神を混亂せしめたる、個我執着理論偏重の近代的迷信者である。また國家制度社會組織の重要なる地位をしめつゝ、奉公の忠義をわすれて個我の名利をめあてとし、祖國の恩德に報ゆることを思はずして黨派支配閥族專橫の肆心をたくましくしたりしものらは、國民思想を批判指導するちからもなく、かれらはともにひとしく、國家無窮の生命と國家現實の威嚴とを防護することをおこたりつゝ、眼前の効果と一時の享樂とに夢みつゝあつたのであ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com